学校評価を受けて　２学期からの改善点（8／31 ブロック会議）

初 等 部

【大勢との関わりについて】

・大人数が苦手で本校を選んでいる家庭もあることを意識する。

・異学年との交流を大切にする。

【自己肯定感を高める～継続してやっていきたいこと～】

・初等部のよさとして、「褒められたら、もっとがんばろう」ができることがあげられる。

→　褒めることは大切にしつつも、少し褒める内容のレベルを高めていく。

・結果ではなく、過程を評価することを意識した指導。

・見つけたら、声に出して伝える。他の子の行動にもつながるようにする。

・学習でも生活でも、目標とする姿を子供たちと共有していく。

【教育目標について】

・学活の時間が少ないことが、「自治の力」を育むことにマイナスになっている

→　主体性の高まりを阻む一因になっているのではないかと考えられる。

・子供たちが自主的に学校活動をつくっていくためにも、子供たちにとっても分かりやすい言葉の教育目標や校訓が必要である。

・三つのほこりについて、なぜそれが大切かを話し合い、子供たちにとって「誇り」と思えるようにしていく。

・疑問をもったり、自分の考えと比較したりできるように、「批判的にみる視点」を育みたい。

・キャリア教育の視点が本校は弱い。どんなこともキャリア教育の要素があるのはその通りだが、どんな力が大切なのか、かみ砕いて伝えることや、分かりやすい言葉で意識させることは大切だと思う。子供たちに周知していくことで、意識を高める。

中 等 部

【他校との交流を実施】

・5、6年生のふるさと科において、リモートで交流を取り入れていく。（12月頃の予定）

・みさとパビリオンと異なり、環境の違う所に住む他校の子供に向けて発表することになる。地域のことも改めて見つめ直し、発信できるよう準備をしていく。

【3つの誇り】

・ブロック委員会を中心に、子供発信で意識づけをしていく。

・何を意識し、何に取り組むのか、具体的なことも子供達に考えさせたい。

・以前やっていた「中活」として取り組むのもよい。（気付きをもとに活動するボランティア活動）

・ブロック委員だけが中心となって取り組むのではなく、話し合い活動等も利用しながら、ブロック全体で当事者意識をもって活動をすすめられるようにする。

高 等 部

【ふるさと科、国際コミュニケーション科について】

各教科でふるさと科、国際コミュニケーション科に関連する内容を各年間指導計画に示していく。

→ 2つの特別な教科に全教員が関わることができる

【子供の表れの共通理解について】

休み明けに精神的に不安定になる児童生徒も少なからずいるため、全児童生徒の様子を全教職員で観察し、見守っていく。些細な表れでも、日々の記録等に残していくように心掛けていく。

フ リ ー 部

【学校教育目標について】

・みんなで考える。具体的にみんなで話し合う機会や時間を何回か確保していく。

（職員会議や校内研修の最後など）

・中学生を交えた話し合いをもつ。または、中学生の考えを聞く機会をつくる。

【ふるさと科と国際コミュニケーション科について】

・行き詰まり感がある。

・「どんな活動を組んでいくか」というのではなく、それら自体について考えていく必要がある。

・特例校であることで、授業時数の制限があったり、何か特別なことをしなくてはいけないと考えたりしがちである。特例校でなくても質を落とさずに、子供たちの学びを保証できる方法を考えていく。（過去の歴史をふまえ、職員の共通理解と慎重な議論が必要）

【引佐北部小中学校のこれからについて】

・社会に出た時のためにコミュニケーション力を高める

・部活動　生徒数が減り、チームが成立しなくなる可能性もある。

・たくさんの行事→目標の明確化を：　発達段階に応じて子供たちと共有して取り組む。